

## 【記者からの質問】

西日本新聞／災害復旧が進んでいない中、予算に込められた知事の思いを。

知事／皆さん方がつらい状況の中、できるだけ早く光が見えるような仕事をしたいと、常々考えている。最近、武雄、大町の事業者が仕事を再開したという話をいくつか聞き、うれしく思っている。

2度も被災した皆さんにエールを送りたい。ことばだけでなく、早期に災害への対応をして、来るべき大雨に備えたい。

西日本新聞／3回目のワクチン接種への方針を。また、大規模接種会場の設置は？

知事／現在の感染状況は落ち着いているが、諸外国をみていると、ワクチンの効果は一定の期間があると推察する。そうした中、国が3回目接種への方向性を出したことにに対し評価したい。確保されたワクチンを希望する皆さんに接種できるよう体制を整えていく。

12月から医療従事者への接種を開始する。今月中には、接種券が発送できるよう準備を進めている。1月には、それ以外の皆さん方への接種を進めたい。

2回目接種から8か月後に、3回目接種開始の方針が出た。まず、ファイザーワクチン、途中からモデルナが入ってくるだろう。国から、交差接種は問題ないと示された。

接種も3回目になり、問題ないと思うが、市町や県民の皆さんがお困りの状況があれば大規模接種会場も検討する。県は、補完的な役割になるので、市町と連携する。

西日本新聞／おいし〜と食事券の追加発行の予定は？

知事／75億円分のお食事券は、全国で人口当たり3番目の規模を発行し完売したが、なかなか売れない県もあるようだ。第2弾の県独自のお食事券もすぐに完売した。

本県は、支え合う気持ちの強い県であり、お食事券のニーズがある。国は、今週経済対策を取りまとめるそうなので、Go To Eatを追加実施してもらおうとありがたい。

朝日新聞／コロナ対策の交付金は、前回「かつかつ」との表現が使われた。今回の状況は？

知事／かつかつです。未執行の部分があり、5億ほど残っているが、これだけでは足りない。国に対する要請もしながら、県の一般財源にならないよう対応していきたい。

朝日新聞／全国の交付金の使用例に対し、財務省の主計局が理解しにくいと苦言を呈していた。今回も交付金を利用するのか。

知事／コロナ対策を中心に、医療従事者や医療環境を守っていくのが第一義。本県も医療関係に538億円、事業支援者に268億円を支援した。

昨年のSSPカップは、コロナ後に向き合うということで地方創生臨時交付金に該当する。

このような先に展望が持てるような事業展開は続けていきたい。地方から宇宙というのは、トレンドになってきたし、誹謗中傷はその後大きな問題になっていった。本県は、先を見越した問題提起をしたと自負している。

西日本新聞／佐賀空港は、駐車場が無料というのが売りではないか。一部有料化する狙いは？

知事／県営空港で無料化しているのは、大きな売りで大事にすべきところ。だから、一部に限定し、ほとんどが無料のまま。近くに置かなければいけないニーズに対応するため。

今後の状況や利用者の意見を聞きながら展開を考えていきたい。

読売新聞／医療提供体制の強化にホテルの予算は入っていないのか。

知事／ホテルは、前回予算化した。北部で交渉を継続中。

読売新聞／病床やホテルの増加に対する運用のシミュレーションはできているのか。

知事／感染速度が2倍を想定し、ワクチン効果を考慮に入れ、感染速度を1.5倍で想定した。やってみないとわからない部分があるので、ざっくり想定した。人口10万人当たり3番目に多い病床数とプロジェクトMを最大限活用して、なんとかできるのではと期待している。

最終的に自宅療養になった場合、県庁内にセンターを置き、自宅療養者への支援をしていく。第6波へも、先手に対応できる設定にした。